

from the world
世界の国から

ラオス人民民主共和国

Lao People's Democratic Republic



マノトーン・ヴォンサイ氏

ラオス計画投資省
投資促進局 次長

Mr. Manothong VONGSAY

Deputy Director General
Investment Promotion Department
Ministry of Planning and Investment, Lao PDR

首都 ビエンチャン
面積 約24万平方キロメートル
人口 580万人
政体 人民民主共和制
元首 チュンマリ・サイニャソーン大統領
通貨 キープ
日本からの主な進出企業
王子製紙、東京コイルエンジニアリング、
山喜、関西電力、ミドリ安全ほか



鉱業とエネルギー分野を中心にさらなる投資誘致を目指す

好調なラオス経済

ラオスの経済は順調に推移しており、2006/2007年のGDP成長率は8%を記録、インフレも4.5%に抑え、今後も好景気が続くでしょう。また貿易収支が初めて黒字に転換しましたが、これはラオスにとって画期的なことです。この牽引力となった産業は鉱業で、ラオスの鉱山で産出された金や銅が輸出に貢献しています。亜鉛やリン、ボーキサイトなども豊富にあり、鉱業の伸びはこれからも期待できるでしょう。

水力発電に関してはすでに2つのIPPプロジェクトが稼働中であり、それ以外に大規模なものを含め4プロジェクトが建設中です。試算では、3万メガワットの開発の可能性があるとも言われています。

観光もラオスの主要産業です。昨年は約130万人が、温泉のあるジャール平原や世界遺産に登録されている古都ルアン・パバンやワット・プー遺跡などを訪れました。2007年1月からは



アセアン諸国以外で唯一、日本人に対するビザが免除になりましたが、これも日本とラオスの友好関係を示していると思います。また2006年12月に完成した第二国際メコン橋によってミャンマー・タイ・ラオス・ベトナムをつなぐ東西回廊が完成し、こちらも観光客誘致にプラスとなっています。

期待されるサバナケット開発

今後は農業、農産品加工業なども有望です。非常に広大で肥沃な土地は重工業が存在していないので、汚染の心配もありません。また農薬や肥料を使った栽培方法も普及していないことから、有機栽培のポテンシャルは高いと思います。さらに、競争力のある労働コストや、一般特恵関税を利用した輸出も注目されています。

現在、サバナケットでは、二つの開発業者による産業用地開発プロジェクトが進行中です。一つはSEZ（経済特区）開発で、タイの空港地上サービスを行っている企業によるものです。この開発の基本計画はJICAが作成しましたが、サイトAがサービス・金融分野、サイトBが製造企業の立地を想定しています。もう一つは、マレーシアの企業によるもので、9号線沿いにEPZ（輸出加工区）の開発を計画しています。



ワッタイ国際空港

投資協定の締結を活性化の糸口に

ラオスは低い犯罪率と30年にもわたる政治の安定によりアセアン地域の中でも極めて平和で安定した国であるといえます。またラオスではWTOへの加盟に向けた法的な整備も進行中です。

今年の1月にラオス副首相が来日し、日本ラオス投資協定に署名しました。この協定は非常にリベラルかつユニークな内容で、日本の投資家にとっては、ビジネスチャンスが増加することが期待されます。日本企業は、投資決定までに時間がかかり、大変慎重な部分もありますが、決定後は計画が確実に実行されるので、高く評価されています。ラオスにとって日本は学校やインフラを始め最大の援助国であり、特別な友好感情を持っています。帰国後は今回のフォローアップで忙しくなりますが、企業からの問い合わせにしっかりと応えていきたいと思っています。

写真提供：日本アセアンセンター